

株 主 各 位

## 第46期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

第46期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

- ①連結株主資本等変動計算書
- ②連結計算書類の連結注記表
- ③株主資本等変動計算書
- ④計算書類の個別注記表

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.jast.jp/ir/>）に掲載することにより、株主の皆様提供しております。

日本システム技術株式会社

## 連結株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,076,669	994,621	3,740,158	△266,539	5,544,909
当期変動額					
剰余金の配当			△131,200		△131,200
親会社株主に帰属する当期純利益			579,161		579,161
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	447,961	—	447,961
当期末残高	1,076,669	994,621	4,188,119	△266,539	5,992,871

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	85,686	△13,063	75,227	147,850	48,396	5,741,157
当期変動額						
剰余金の配当						△131,200
親会社株主に帰属する当期純利益						579,161
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	40,903	2,635	16,466	60,005	△2,561	57,444
当期変動額合計	40,903	2,635	16,466	60,005	△2,561	505,405
当期末残高	126,589	△10,428	91,694	207,856	45,835	6,246,562

## 連結注記表

<連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等>

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 8社

連結子会社の名称

JAST TECHNIQUES PTE. LTD.  
JASTEC (THAILAND) CO., LTD.  
アルファコンピュータ株式会社  
株式会社新日本ニーズ  
SafeNeeds株式会社  
桂林安信軟件有限公司  
上海嘉峰信息科技有限公司  
株式会社アイエスアール

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用対象会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち在外連結子会社4社の決算日は平成29年12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成30年1月1日から連結決算日平成30年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、国内連結子会社4社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

##### イ 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

##### ロ その他有価証券

##### ・ 時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

##### ・ 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ② たな卸資産

##### ・ 商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ・ 製品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ・ 仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ・ 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

## (2) 固定資産の減価償却の方法

### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	10年～35年
その他	4年～10年

### ②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法を採用しております。

### ③リース資産

イ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

ロ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### ④投資その他の資産

その他（賃貸不動産）

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は47年（建物）であります。

## (3) 引当金の計上基準

### ①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### ②賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

### ③役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社の一部は役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

### ④役員賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額の当連結会計期間負担額を計上しております。

## (4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

### ①退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法によりそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により発生時から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

- ②受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準
- ・当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
  - ・その他の契約  
工事完成基準
- ③のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。
- ④消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

<連結貸借対照表に関する注記>

1. 資産に係る減価償却累計額
- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| (1)有形固定資産              | 659,080千円 |
| (2)投資その他の資産 その他（賃貸不動産） | 200,762千円 |

<連結株主資本等変動計算書に関する注記>

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
- |      |            |
|------|------------|
| 普通株式 | 5,612,230株 |
|------|------------|

2. 配当に関する事項
- (1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	131,200	25	平成29年3月31日	平成29年6月12日

- (2)基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの  
平成30年5月11日開催の取締役会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。
- |           |            |
|-----------|------------|
| ①配当金の総額   | 146,944千円  |
| ②1株当たり配当額 | 28円        |
| ③基準日      | 平成30年3月31日 |
| ④効力発生日    | 平成30年6月11日 |
- なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

<金融商品に関する注記>

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要な資金については主に自己資金で賄っておりますが、資金繰りの状況や金融情勢を勘案し、銀行からの借入によっても資金を調達しております。一時的な余資は元本保証、固定金利の預金等、安全性の高い金融資産に限定して運用しております。また、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

与信管理規程に従い、担当部署が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,994,700	2,994,700	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,991,576	4,991,576	—
(3) 投資有価証券			
①満期保有目的の債券	202,587	203,460	872
②その他有価証券	502,652	502,652	—
(4) 差入保証金	390,110	385,903	△4,207
資産計	9,081,627	9,078,292	△3,334
(1) 買掛金	2,040,633	2,040,633	—
(2) 短期借入金	218,592	218,592	—
(3) 未払法人税等	271,702	271,702	—
(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	28,700	28,733	33
負債計	2,559,628	2,559,661	33

(注) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価は、将来返還されない保証金を控除した金額を、国債の利回り等の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、並びに(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

<退職給付会計注記>

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく退職一時金制度、確定給付型の企業年金制度及び確定拠出型の企業年金制度があります。また、当社及び株式会社アイエスアールは全国情報サービス産業厚生年金基金に加入していましたが、平成29年7月1日付で厚生労働大臣より認可を受け解散したため、新たに後継制度として設立した「全国情報サービス産業企業年金基金」へ同日付で移行しております。当基金の解散による追加負担額の発生は見込まれておりません。なお、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額34,863千円を費用計上しております。

アルファコンピュータ株式会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、日本ITソフトウェア企業年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額2,121千円を費用計上しております。

株式会社新日本ニーズは、中小企業退職金共済に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結計算書類上、掛金拠出額1,983千円を費用計上しております。

なお、在外連結子会社のうち1社は、現地国制度に基づく退職金制度を採用しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(全国情報サービス産業厚生年金基金)

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況 (平成29年3月31日現在)

年金資産の額	748,654,555千円
年金財政上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	732,391,260千円
差引額	16,263,295千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

0.50% (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、下記のとおりであります。

過去勤務債務残高	△28,770千円
当年度剰余金	16,292,065千円
合計	16,263,295千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(日本ITソフトウェア企業年金基金)

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況 (平成29年3月31日現在)

年金資産の額	27,094,499千円
年金財政上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	26,532,400千円
差引額	562,099千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

0.14% (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の要因は、剰余金562,099千円であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(全国情報サービス産業企業年金基金)

平成29年7月1日の移行であり、直近時点で金額が確定していないため、記載を省略しております。



## 2. 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	1,626,449千円
勤務費用	141,390千円
利息費用	16,870千円
数理計算上の差異の発生額	△9,500千円
退職給付の支払額	△81,854千円
その他	△490千円
退職給付債務の期末残高	1,692,865千円

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	1,234,803千円
期待運用収益	30,870千円
数理計算上の差異の発生額	36,569千円
事業主からの拠出額	48,717千円
退職給付の支払額	△42,822千円
年金資産の期末残高	1,308,138千円

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	772,656千円
年金資産	△1,308,138千円
	△535,482千円
非積立型制度の退職給付債務	920,209千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	384,726千円

退職給付に係る負債	920,209千円
退職給付に係る資産	△535,482千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	384,726千円

### (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	141,390千円
利息費用	16,870千円
期待運用収益	△30,870千円
数理計算上の差異の費用処理額	△22,142千円
過去勤務費用の費用処理額	△194千円
確定給付制度に係る退職給付費用	105,055千円

### (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

過去勤務費用	△194千円
数理計算上の差異	23,928千円
合計	23,734千円

### (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	747千円
未認識数理計算上の差異	131,415千円
合計	132,163千円

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	56%
株式	41%
現金及び預金	3%
合 計	100%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率 1.07%

長期期待運用収益率 2.5%

一時金選択率 100%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、73,973千円であります。

<税効果会計に関する注記>

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)
繰延税金資産（流動）	
賞与引当金	196,390
未払費用	30,156
未払金	1,869
未払事業税	24,959
繰越欠損金	5,439
棚卸資産	10,480
その他	32,849
計	302,145
繰延税金資産（固定）	
役員退職慰労引当金	133,380
退職給付に係る負債	275,863
貸倒引当金	13,659
賃貸不動産	19,406
資産除去債務	30,335
未払金	3,822
繰越欠損金	51,530
その他	13,872
繰延税金資産小計	541,871
評価性引当額	△212,586
計	329,284
繰延税金負債（固定）	
その他有価証券評価差額金	55,868
退職給付に係る資産	163,964
その他	22,243
計	242,076
繰延税金資産の純額	87,207

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との主要な差異原因

(1) 法定実効税率	30.9%
（調整）	
交際費等永久差異項目	1.4%
住民税均等割	0.8%
評価性引当額の減少	△1.8%
税額控除	△6.2%
のれん償却額	0.4%
親会社と連結子会社の税率差異	0.6%
その他	0.1%
(2) 税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.2%

<賃貸等不動産に関する注記>

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、兵庫県において、賃貸用マンション（土地を含む。）を有しておりましたが、平成30年4月27日付で当該物件の全てを売却することを平成30年3月に決定したことに伴い、減損損失6,688千円（特別損失に計上）が発生しております。平成30年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,081千円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上）であります。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

（単位：千円）

連結貸借対照表計上額	時 価
117,406	121,733

（注） 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、契約により取り決められた当該売却予定価額を時価としております。

<1株当たり情報に関する注記>

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 1,181円54銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 110円36銭   |

# 株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,076,669	1,038,308	1,038,308	32,665	3,409,000	563,364	4,005,029	△266,539	5,853,468
当期変動額									
別途積立金の積立					250,000	△250,000	—		—
剰余金の配当						△131,200	△131,200		△131,200
当期純利益						495,728	495,728		495,728
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	—	250,000	114,527	364,527	—	364,527
当期末残高	1,076,669	1,038,308	1,038,308	32,665	3,659,000	677,892	4,369,557	△266,539	6,217,996

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	86,177	86,177	5,939,645
当期変動額			
別途積立金の積立			—
剰余金の配当			△131,200
当期純利益			495,728
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	40,412	40,412	40,412
当期変動額合計	40,412	40,412	404,940
当期末残高	126,589	126,589	6,344,585

## 個別注記表

### <重要な会計方針に係る事項に関する注記>

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ①子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。
- ②満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）を採用しております。
- ③その他有価証券
  - ・時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
  - ・時価のないもの  
移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ①商品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ②製品 総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ③仕掛品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
- ④貯蔵品 最終仕入原価法を採用しております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10年～35年

工具、器具及び備品 4年～10年

##### (2) ソフトウェア

（リース資産を除く）

社内における利用可能期間（3～5年）による定額法を採用しております。

##### (3) リース資産

- ①所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- ②所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (4) 賃貸不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

賃貸不動産（建物） 47年

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により翌事業年度から費用処理することにしております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により発生時から費用処理することにしております。
- (4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- (5) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額の当期負担額を計上しております。
- (6) 債務保証損失引当金 関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、被保証会社の財政状態等を勘案して、損失負担見込額を計上しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

- (1) 受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準
- ① 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約 工事進行基準  
(工事の進捗率の見積りは原価比例法)
- ② その他の契約 工事完成基準

### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

<貸借対照表に関する注記>

1. 偶発債務

関係会社の金融機関からの借入に対する債務保証

JAST TECHNIQUES PTE. LTD.	61,544千円
アルファコンピュータ株式会社	600,000千円
株式会社新日本ニーズ	70,000千円
株式会社アイエスアール	28,700千円

外貨建債務保証は、決算日の為替相場により円換算しております。

なお、JAST TECHNIQUES PTE. LTD.、アルファコンピュータ株式会社及び株式会社新日本ニーズが金融機関との間で締結している当座貸越契約について当社が保証を行っており、当該当座貸越枠を記載しております。

2. 資産に係る減価償却累計額

(1)有形固定資産	623,464千円
(2)賃貸不動産	200,762千円

3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

(1)関係会社に対する短期金銭債権	40,625千円
(2)関係会社に対する短期金銭債務	78,142千円

<損益計算書に関する注記>

1. 関係会社との取引高

(1)営業取引による取引高

①営業収入	71,883千円
②営業費用	376,430千円
(2)営業取引以外の取引による収入	44,468千円

<株主資本等変動計算書に関する注記>

1. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数  
普通株式

364,210株



<税効果会計に関する注記>

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

		(単位：千円)
繰延税金資産（流動）		
賞与引当金		171,323
未払費用		26,370
未払金		1,869
未払事業税		19,265
その他		5,374
計		224,202
繰延税金資産（固定）		
役員退職慰労引当金		107,644
退職給付引当金		264,986
貸倒引当金		42,332
賃貸不動産		19,406
資産除去債務		29,538
関係会社株式		33,728
未払金		3,822
債務保証損失引当金		5,804
その他		10,800
繰延税金資産小計		518,064
評価性引当額		△225,088
繰延税金資産合計		292,976
繰延税金負債（固定）		
その他有価証券評価差額金		55,868
前払年金費用		127,309
その他		20,376
計		203,555
繰延税金資産の純額		89,421

<関連当事者との取引に関する注記>

1. 子会社及び関連会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称	議決権の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注) 2	科目	期末残高
子会社	アルファコンピュータ株式会社	所有 直接100%	役員の兼任 債務保証	債務保証 (注) 1	600,000	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. アルファコンピュータ株式会社の金融機関からの融資枠に対して、当社が600,000千円の債務保証を行ったものであります。なお、平成30年3月31日現在における同社の銀行借入金残高は200,000千円となっております。

2. 取引金額には消費税等を含めておりません。

<1株当たり情報に関する注記>

1. 1株当たり純資産額	1,208円95銭
2. 1株当たり当期純利益	94円46銭